

2024 年度
(令和 6 年度)

学校関係者評価報告書

2024 年 7 月

学校法人 国際文化アカデミー
JTB ツーリズムビジネスカレッジ

1、学校関係者評価

(1) 目的

- ① 自己評価の評価結果の客観性・透明性を高める。
- ② 専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ③ 学校の重点目標や評価項目が適切か
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

(3) 評価期間

2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日）

(4) 評価結果の公表・活用

- ① 評価結果や今後の改善方策等を公表する。
- ② 評価結果を改善方策の検討に活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的な改善を図る。

(5) 学校関係者評価委員会の構成

① 学校関係者評価委員 4名

氏名	種別	所属	役職	任期
傳寶 貴子	企業	(株)京王プラザホテル	人事部人事支配人	3年
齊藤 一郎	地域	巣鴨信用金庫	本店営業部 部長	3年
飯塚 祐美	卒業生	三井不動産 株式会社	(同窓会会長)	3年
土井 えり子	企業	(株) J T B	人財開発担当部長	3年

② 学校経営者層教職員 3名

氏名	所属	役職
坂本 友理	JTB ツーリズムビジネスカレッジ	常務理事 校長
鈴木 良照	JTB ツーリズムビジネスカレッジ	常務理事 総務部長
堀口 由美子	JTB ツーリズムビジネスカレッジ	教務部長

(6) 学校関係者評価委員会の実施状況

- ① 日時 : 2024年7月1日(月) 14:00~16:10
- ② 場所 : JTB ツーリズムビジネスカレッジ 図書室
- ③ 参加者 : 学校関係者評価委員及び学校経営者層教職員
- ④ 配布資料 : 2023年度自己評価報告書
- ⑤ 議題 : 2023年度の自己評価について

2、実施方法(評価)

(1) 『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って実施した『2024年度自己評価報告書』について、学校関係者教職員から基準毎(1~10)について説明を行った後、学校関係者評価委員が点数化し、その平均点(小数第2位を四捨五入)を記載した。(自己評価についても、各項目の平均点を記載した。)

(2) 基準毎の評価点は下記の通り

- 4点 : 適切
- 3点 : ほぼ適切
- 2点 : やや不適切
- 1点 : 不適切

(3) 学校関係者評価委員からの質問、意見等を記載した。

3、評価結果報告

【基準1】教育理念・目的・人材育成

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
1-01	理念・目的・育成人材像	4.0	4.0

(質問・回答)

・課題や解決に向けた取組はいつの時点のものかを確認したい。
⇒2023年度の途中で課題と認識し、取り組んできた事項をまとめている、次年度に向けて取組み継続中のものも含まれる。

(意見)

- ・特色ある教育活動の一つとして「巣鴨商店街の活性化」の事例発表は素晴らしい取り組み。生徒が自分事としてとらえていることに感動した。
- ・時代の要請に応じたカリキュラム、中でもデジタルマーケティング等のカリキュラムの取入れはスピードをもって進めて頂きたい。
- ・ツーリズム業界全般の成長への人財輩出による貢献には、大いに期待しています。

【基準2】 学校運営

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
2-02	運営方針	4.0	4.0
2-03	事業計画	3.8	
2-04	運営組織	4.0	
2-05	人事・給与制度	4.0	
2-06	意思決定システム	4.0	
2-07	情報システム	4.0	

(意見)

- ・このような激動した時代だからこそ、固定観念に捕らわれない発想で「中期計画」を「単年度計画」にしたことは評価できる。評価は「3」→「4」でも良いと思う。
- ・厳しい環境の中でも柔軟な運営が行われていると認識している。継続した対応を期待する。
- ・教職員の人材確保は困難であることは理解しているが、継続して注力してほしい。

【基準3】 教育活動

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
3-08	目標の設定	4.0	4.0
3-09	教育方法・評価等	3.9	
3-10	成績評価・単位認定等	4.0	
3-11	資格・免許の取得の指導体制	4.0	
3-12	教員・教員組織	4.0	

(質問・回答)

- ・カリキュラム変更やそれに伴う教職員確保の状況を教えてほしい。
- ⇒「JTB カレッジ再生プロジェクト」にて、カリキュラムの見直しも行っていく。基本的には最先端のツーリズムを、実践的に学ぶことに主眼をおいてカリキュラム構築を図っていきたい。最先端かつ実践的なカリキュラムを教えるには、むしろ現場の前線にいるの方が望ましい場合もあるので、兼業や副業などのスタイルを取りながらの教職員確保も視野に入れている。

(意見)

- ・学生に対しする個別アンケートの実施は、評価できる。生徒目線で実践することが大切。
- ・教育レベルの維持・確保のためにも教職員全体講師会は今後も継続してほしい。

- ・ITリテラシー教育は急務であると感じる。
- ・最先端、実践的な業界の知見を取り込むために、柔軟な働き方も検討してほしい。

【基準4】学修成果

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
4-13	就職率	4.0	4.0
4-14	資格・免許の取得率	4.0	
4-15	卒業生の社会的評価	2.5	

(質問・回答)

- ・留学生の出身国の変化はあるか？

⇒中国出身が多い。ついでベトナム、ミャンマーなど非漢字圏も増えているが、アジア圏の学生が中心。日本語能力のレベルも変わってきている。

- ・4-15-1 卒業生の社会的評価を把握するのは、困難ではないか？

⇒ホームページなども活用して卒業生情報の収集を行い、最新の学生管理システムへの入力・データ管理により状況の把握を図っていきたい。

(意見)

- ・希望者就職率100%は、もっとアピールすべきである。
- ・留学生の国による文化の違いを理解しサポートする配慮は、今後必要不可欠で重要。

【基準5】学生支援

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
5-16	就職等進路	4.0	4.0
5-17	中途退学への対応	4.0	
5-18	学生相談	4.0	
5-19	学生生活	3.8	
5-20	保護者との連携	4.0	
5-21	卒業生・社会人	3.0	

(質問・回答)

- ・大規模災害の対策はどのように行っているか？

⇒避難所を近くの公園、小学校に設定し、避難訓練も実施している。

(意見)

- ・地域と一体となった大規模災害発生訓練も検討したらどうかと思う。

- ・一人ひとりへの丁寧なフォローにより中途退学を抑えられており、評価できる。
- ・卒業生への支援は優先度が低いと思われるので、評価は妥当と思う。

【基準6】教育環境

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
6-22	施設、設備等	3.8	3.75
6-23	学外実習、インターンシップ等	4.0	
6-24	防災・安全管理	4.0	

(意見)

- ・学生の命を守る点が明確になっている。
- ・施設の老朽化への対応、設備の拡充は、学生の学びやすさや募集へのインパクトなど、明確に優先順があると良いと感じる。
- ・実習中の体調不良等は増加傾向にあり、学校・保護者との連携が大切と感じる。

【基準7】学生の募集と受入

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
7-25	学生募集活動	4.0	3.75
7-26	入学選考	4.0	
7-27	学納金	4.0	

(質問)

- ・他の専門学校での募集状況はいかがか？

⇒観光分野では、ホテルやブライダル関係は需要が戻ってきている印象がある。観光系分野以外ではパティシエ、メイクなどスキルを身に付ける職種の学校に一定の人気がある。観光系は、大学と専門学校の学びの違いを的確に伝えていく必要がある。HP、Instagram、Line、TikTok、Youtubeなどを活用して訴求効果等を分析しながら募集強化を行っている。

(意見)

- ・学生募集に対する多岐に渡る取り組みを、理解できた。業界の危機感を感じ、学校と企業がより連携できると良いと感じた。
- ・希望就職者率 100%は学校の強みとして更に活かしてほしい。
- ・横断プロジェクトの成果に大いに期待している。

【基準8】財務

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
8-28	財務基盤	3.9	4.0
8-29	予算・収支計画	4.0	
8-30	監査	4.0	
8-31	財務情報の公開	4.0	

(意見)

- ・寄附金が要因とはいえ、繰越収支黒字化は評価できる。
- ・将来にわたり、安定した財務基盤の整備が急務であると認識している。継続して適正な投資は行ってほしい。

【基準9】法令等の遵守

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	4.0	4.0
9-33	個人情報保護	4.0	
9-34	学校評価	4.0	
9-35	教育情報の公開	4.0	

(意見)

- ・コンプライアンスは重要な課題であるが、常に緊張感を持って取り組んでほしい。
- ・コンプライアンスに対して高い意識を持って取組がなされていると感じる。

【基準10】社会貢献、地域貢献、国際交流

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
10-36	社会貢献・地域貢献	2.9	4.0
10-37	ボランティア活動	4.0	

(意見)

- ・地域の皆さんも、学生の地元の行事への参加を楽しみにしている。
- ・社会貢献、地域貢献は今後の再開や更なる発展に期待している。教職員への意識づけの強化も進めてほしい。

【全体】

(全体を通しての意見)

- ・「自己評価」は、たいへん厳しい視点で評価していると感じた。就職者希望率 100%の達成は、より学校としてアピールすべきである。
- ・社会環境が大きく変化し、多くの苦労があると感じた。学生数減少については、学校だけでなく、JTB が選ばれる会社にならないと厳しい状況が続くと感じている。
- ・学校だけでなく、業界も危機感がある。就職先として可能なことは協力していきたい。
- ・厳しい環境の中での学校運営は様々な困難や苦労があると感じた。その中でも工夫をし、学生に寄り添っている姿は評価に値する。一方で、ツーリズム産業全体の成長への不安感は、社会全体にまん延しており、学校だけでなく会社・業界で取り組まなければならない状況であると理解する。
- ・学生のニーズを正確に取り込みながら、ツーリズム業界が求めている人材の育成をかなえるために、カリキュラムを変えていくことによって、より魅力ある学校へと進化していくことを期待します。

以上